

2013年3月11日 全6頁

Indicators Update

1月機械受注

内外需ともに大幅減少したものの、明るい材料も少ない

経済調査部
エコノミスト 齋藤勉

[要約]

- 2013年1月の機械受注では、国内設備投資の先行指標である民需（除く船舶・電力）は、前月比▲13.1%と、4ヶ月ぶりのマイナスとなり、市場コンセンサス（同▲1.7%）を大幅に下回った。基調を見るために3ヶ月移動平均で見ても、3ヶ月ぶりのマイナスとなっている。ただし、業種別に内訳を見ると、増加している業種も多くみられることから、1月の機械受注は、緩やかな増加基調にあるものの、一時的に大きく落ち込んだと言えよう。
- 業種別の内訳を見ると、製造業は前月比▲13.2%と3ヶ月ぶりの減少、非製造業（船舶・電力を除く）は前月比▲6.3%と2ヶ月連続の減少となった。内訳を見ると、増加している業種も多くみられることから、ヘッドラインの数字ほど機械受注の落ち込みは大きくないものとみられる。基調としての落ち込みというよりも、一時的な振れと判断してよいだろう。
- 足下では為替レートが円安傾向となっており、製造業を中心に企業業績も好調である。国内の鉱工業生産も2012年11月以降上昇に転じていることなどから、設備投資は増加に向かう公算が大きい。大和総研では1-3月期の機械受注は前期比減少を見込んでいるため、設備投資は一時的に弱含む可能性があるものの、2013年半ば以降緩やかに増加に向かうだろう。

図表1：機械受注の概況（季節調整済み前月比、%）

	2012年												2013年
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
民需（船電を除く）	2.8	▲2.8	5.7	▲14.8	5.6	4.6	▲3.3	▲4.3	2.6	3.9	2.8	▲13.1	
コンセンサス												▲1.7	
DIR予想												▲2.8	
製造業	9.5	▲8.4	3.4	▲8.0	▲2.9	12.0	▲15.1	2.8	▲3.6	3.9	3.0	▲13.2	
非製造業（船電を除く）	2.1	▲3.9	5.7	▲6.4	2.6	▲2.1	3.6	1.3	2.8	6.2	▲8.0	▲6.3	
外需	▲13.4	▲14.4	0.3	0.3	▲9.8	3.0	▲14.7	0.0	9.4	17.0	▲12.6	▲4.8	

（注）コンセンサスはBloomberg。

（出所）内閣府統計、Bloombergより大和総研作成

機械受注は4ヶ月ぶりの大幅減少

2013年1月の機械受注では、国内設備投資の先行指標である民需（除く船舶・電力）は、前月比▲13.1%と、4ヶ月ぶりのマイナスとなり、市場コンセンサス（同▲1.7%）を大幅に下回った。基調を見るために3ヶ月移動平均で見ても、3ヶ月ぶりのマイナスとなっている。ただし、業種別に内訳を見ると、増加している業種も多くみられることから、1月の機械受注は、緩やかな増加基調にあるものの、一時的に大きく落ち込んだと言えよう。

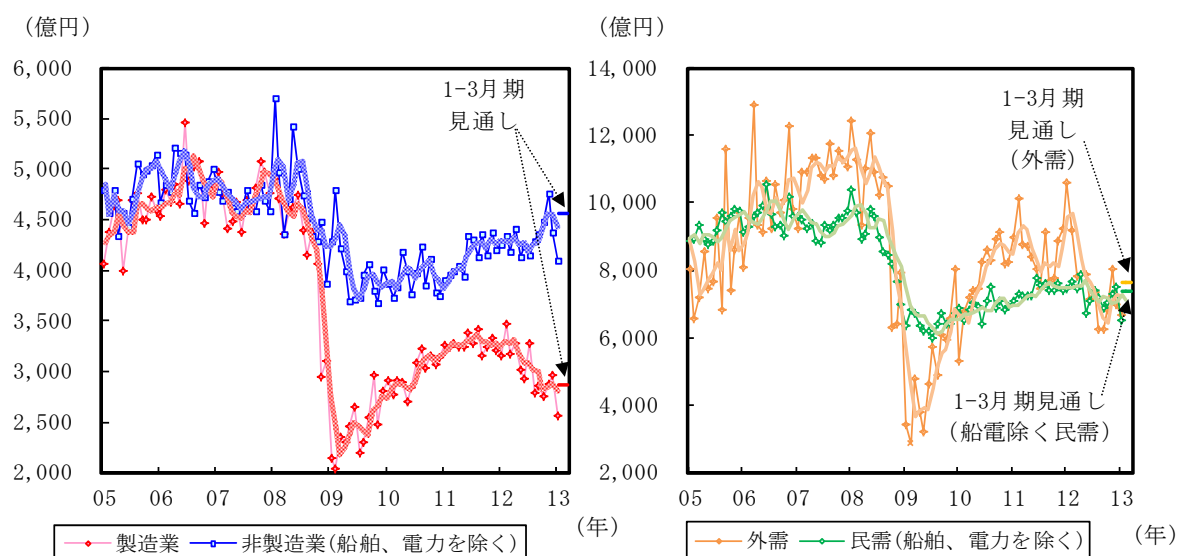
製造業は3ヶ月ぶりの減少、非製造業は2ヶ月連続の減少

業種別の内訳を見ると、製造業は前月比▲13.2%と3ヶ月ぶりの減少となった。「その他製造業」（前月比▲28.0%）、「化学工業」（同▲25.8%）、「電気機械」（同▲13.5%）で大幅に減少したことが全体を押し下げた。一方で、前月大幅に減少した「パルプ・紙・紙加工品」は前月比+48.6%と反動増が見られており、「自動車・同付属品」も同+24.8%と増加幅が大きいことなど、明るい材料も少なくない。

非製造業（船舶・電力を除く）は前月比▲6.3%と2ヶ月連続のマイナスとなった。「通信業」が前月比▲7.4%と2ヶ月連続の減少となったこと、このところ増加の続いていた「不動産業」が同▲36.8%とマイナスに転じたことが、全体の押し下げに寄与した。一方で前月大幅な減少となった「農林漁業」（前月比+27.6%）や「運輸業・郵便業」（同+27.6%）で反動増が見られたことが、全体を下支えしている。

内訳を見ると、増加している業種も多くみられることから、ヘッドラインの数字ほど機械受注の内容は悪いものではなかった。基調としての落ち込みというよりも、一時的な振れと判断してよいだろう。

図表2：需要者別機械受注



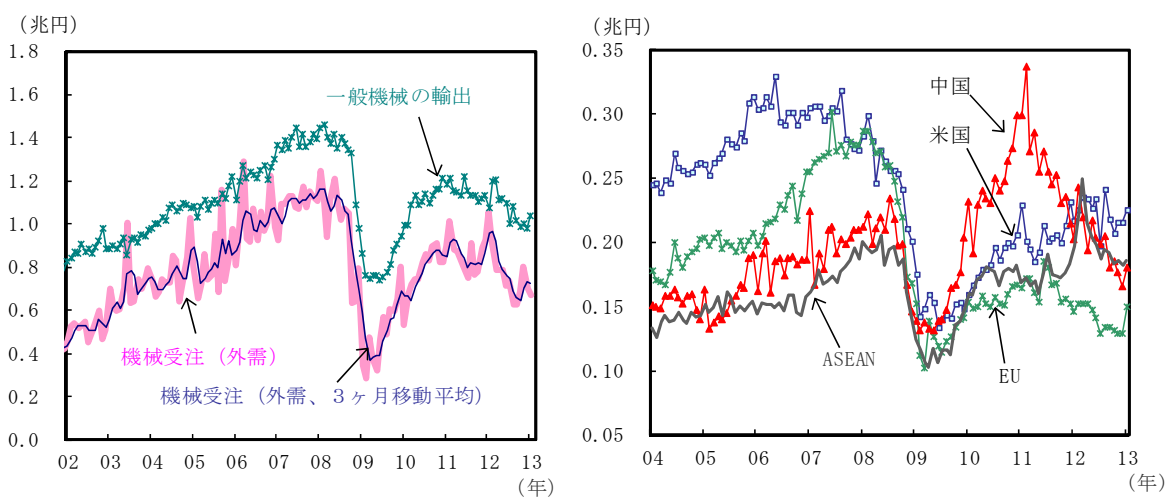
(注) 太線は3ヶ月移動平均線。

(出所) 内閣府統計より大和総研作成

外需も大幅に減少、本格回復には時間を要するか

外需は前月比▲4.8%と2ヶ月連続で減少した。前月の大幅減少からさらに減少しており、3ヶ月移動平均で見ても前月比▲0.8%と3ヶ月ぶりのマイナスとなった。主要輸出先である中国やASEANでは景気が底打ちしたとみられており、このところ為替は円安方向で推移しているものの、外需の本格的な回復にはしばらくの時間を要する可能性がある。

図表3：一般機械の輸出と機械受注の外需 図表4：一般機械の輸出金額（主要国・地域）



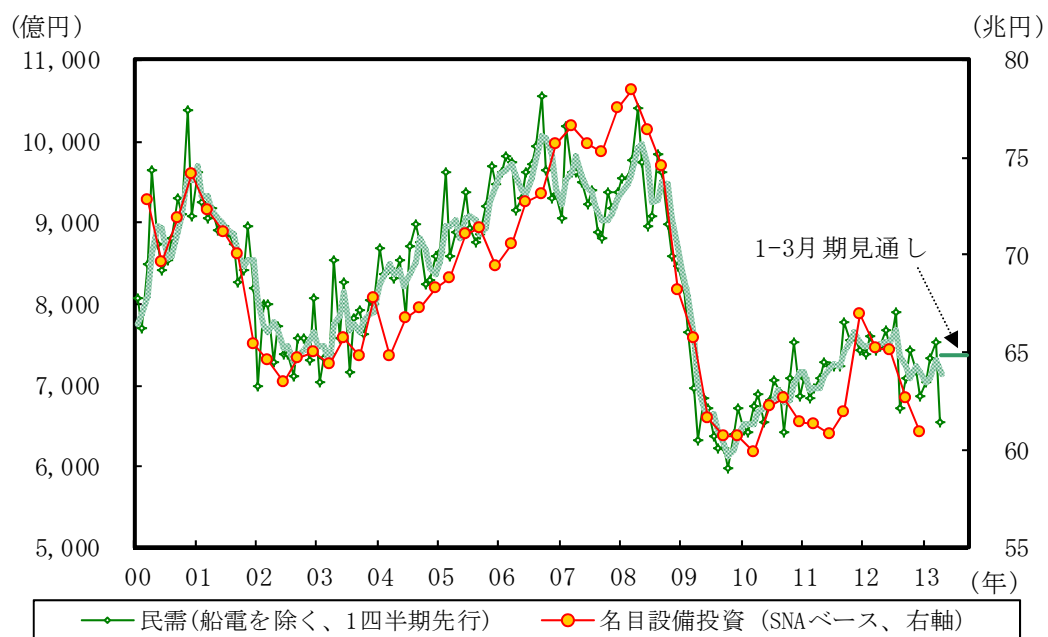
(注) 季節調整値。輸出金額の季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

設備投資は2013年半ば以降緩やかに増加に向かう見込み

内閣府公表の1-3月期見通しでは、民需（除く船舶・電力）は前期比+0.8%と2四半期連続の増加を見込んでいる。これは、2月、3月にそれぞれ前月比+12.0%ずつの増加が必要となっており、達成のハードルは高い。前期比増加となるためには、2月、3月にそれぞれ前月比+11.2%ずつ増加する必要があるため、大和総研では、機械受注は2四半期ぶりの前期比減少となると見込んでいる。

機械受注は2012年10-12月期に増加に転じており、機械受注がGDPベースの設備投資に対して概ね3ヶ月程度の先行性があることを考慮すると、GDPベースの設備投資は2013年1-3月期には増加に転じるとみられる。足下では為替レートが円安傾向となっており、製造業を中心に企業業績も好調である。国内の鉱工業生産も2012年11月以降上昇に転じていることなどから、設備投資は増加に向かう公算が大きい。大和総研では1-3月期の機械受注は前期比減少を見込んでいるため、設備投資は一時的に弱含む可能性があるものの、2013年半ば以降緩やかに増加に向かうだろう。

図表 5 : 機械受注の民需と名目設備投資 (季節調整値)

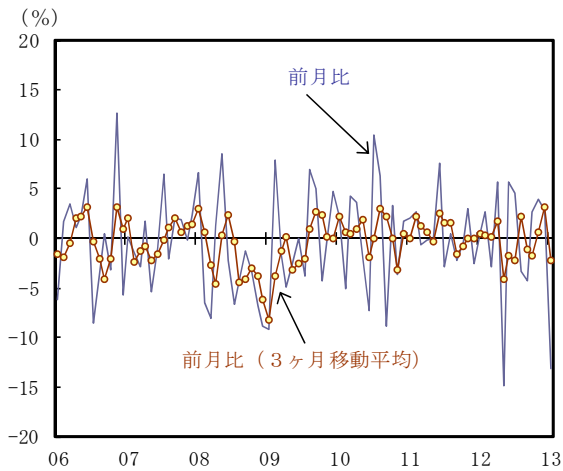


(注) 太線は3ヶ月移動平均線。

(出所) 内閣府統計より大和総研作成

概況

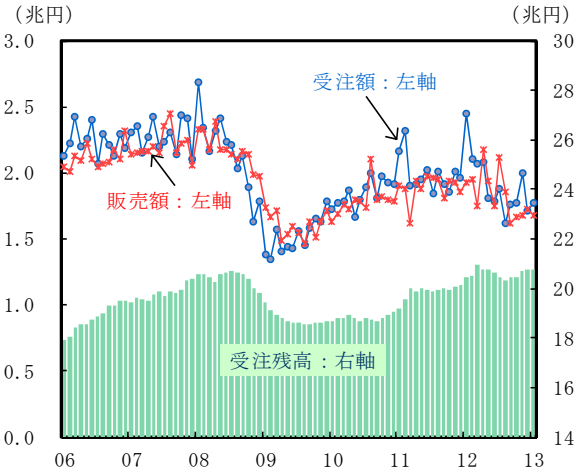
民需（船舶・電力を除く、季節調整済み前月比）



(出所) 内閣府統計より大和総研作成

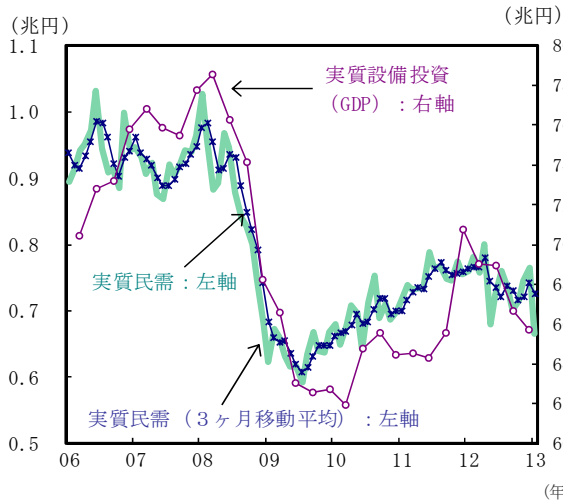
(年)

船舶を除く合計（季節調整値）



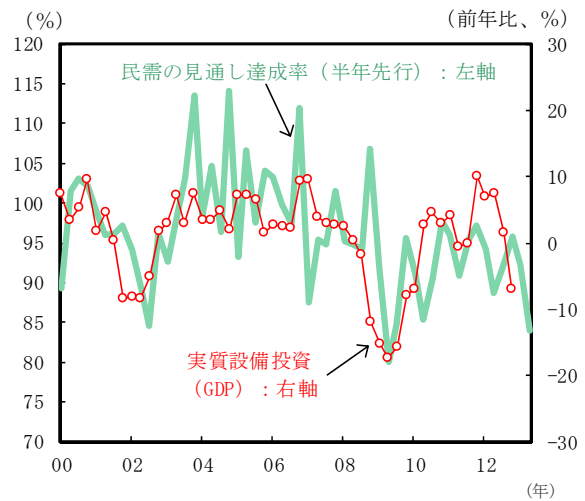
(年)

実質機械受注と実質設備投資（季節調整値）



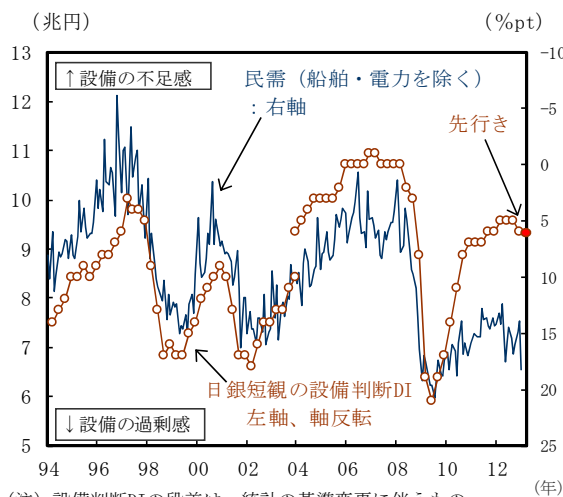
(注) 実質民需は、船舶・電力を除くベースで、企業物価指数（日本銀行）の国内資本財によって実質化。
(出所) 内閣府、日本銀行統計より大和総研作成

民需（船舶・電力除く）の達成率と実質設備投資



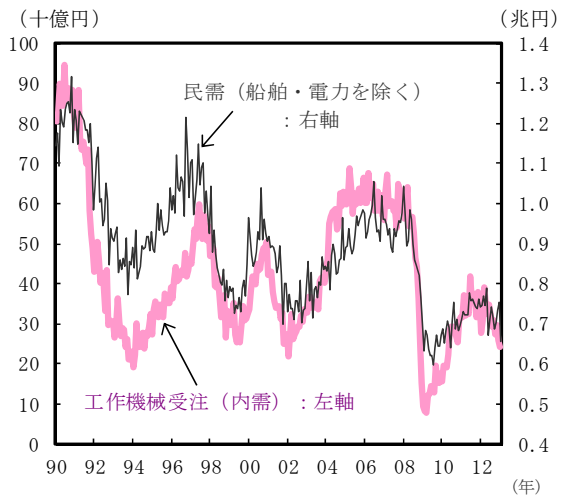
(年)

機械受注（季節調整値）と設備判断DI



(注) 設備判断DIの段差は、統計の基準変更に伴うもの。
(出所) 内閣府、日本銀行、日本工作機械工業会統計より大和総研作成

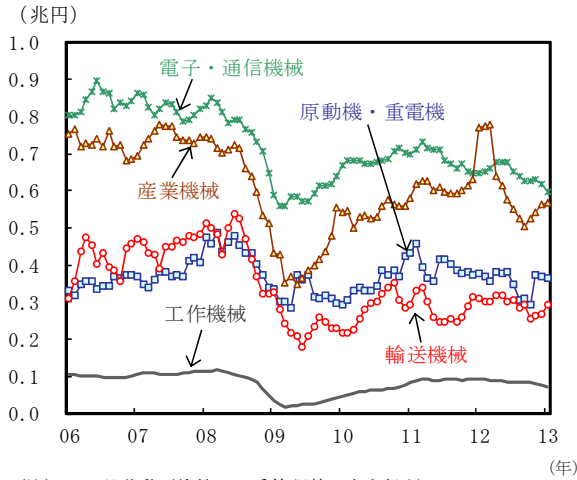
機械受注と工作機械受注



(年)

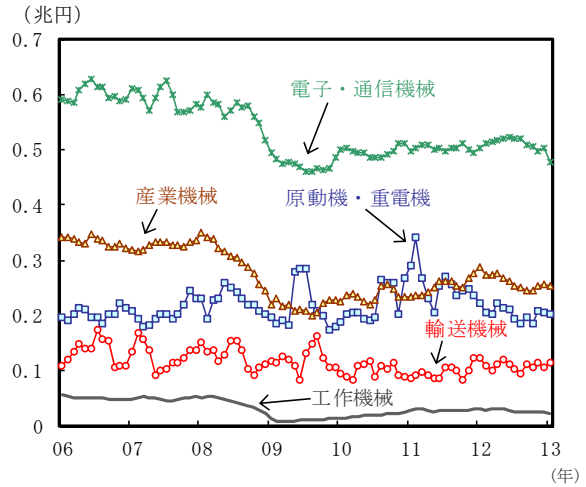
機種別と製造業・非製造業の動向

機種別・大分類の受注額（季節調整値）

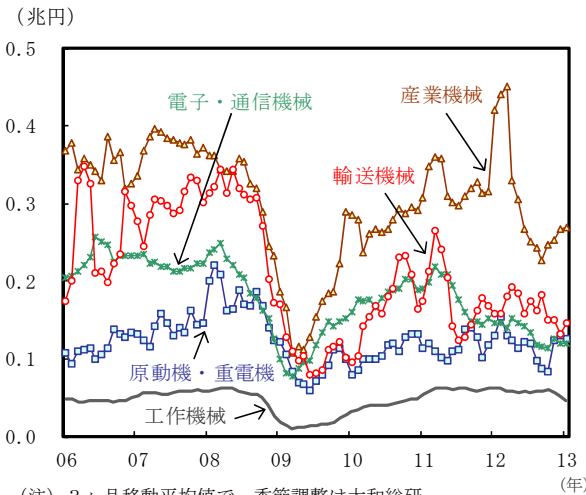


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・大分類の受注額【内需】（季節調整値）

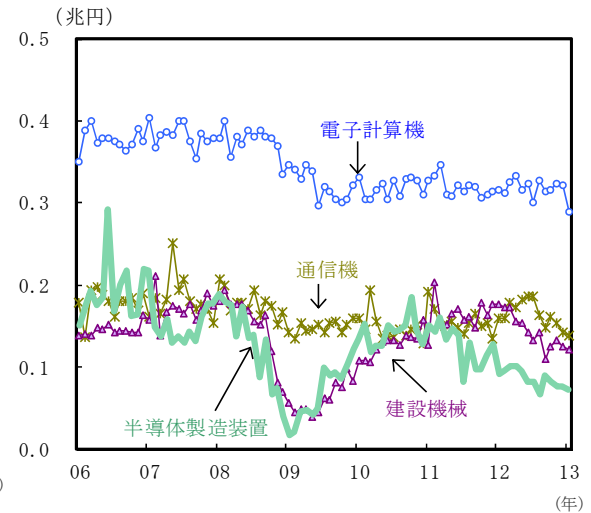


機種別・大分類の受注額【外需】（季節調整値）

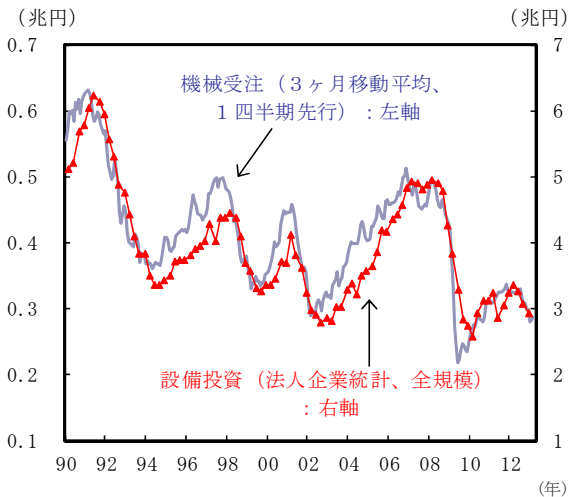


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・主な中分類の受注額（季節調整値）



機械受注と設備投資【製造業】（季節調整値）



(注) 設備投資の季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

機械受注と設備投資【非製造業】（季節調整値）

